

同窓生のコラム



サッカーに関わり50年

高25回 下條 佳明



中学2年生からサッカーを始め、県陵の3年間にはインターハイ、国体、全国高校選手権出場という貴重な体験をした。

大学時代も社会人になってもサッカーを続け、選手引退後も幸せなことにずっとサッカーの仕事に関わってきた。

昨年プロサッカーの現場から離れ、今は時間がゆっくり流れている。



1993年にJリーグがスタートし、四半世紀が過ぎた。最近、時間の経過を改めて感じる出来事があった。

元日本代表の戦士である川口能活選手、橋崎正剛選手、中澤佑二選手、この3人のレジエンドが昨シーズンをもって引退を宣言したことだ。私にとっては、身近で格別な思いがある3選手。各選手と、チームの一員として同じ目標に向かって仕事ができたと懐かしく嬉しく思う。

ワールドカップに出場することが夢であった時代から、出場は当たり前になり、今やベスト8を視野に入れているのが日本のサッカー事情である。

Jリーグのスタートとほぼ同時期にプロ選手人生をスタートした彼らは、現役選手としてその一部始終を体験し、我々の年代とは違った視点で日本のサッカーの語り部となつて

いくことだろう。

ここでサッカーの世界に身を置いて50年の私がプロサッカーチームの監督、コーチ、強化フロンティアという立場で意識してきたことを簡潔にお伝えしたい。

◎「か・け・そ・バ」

か↓感謝、け↓謙虚、

そ↓尊重、バ↓バイタリティー

◎「変わるもの、変わらないもの」

県陵三大精神と理学療法士

高38回 青木 啓成



私は、松本市内の病院で理学療法士（PT）として勤務して30年になる。今でこそPTの認知度は病院や行政、スポーツ領域において徐々に向上し、その存在は必要不可欠なものになりつつある。しかし、1984年に私が県陵に入学した当時、日本におけるPTの認知度は非常に低く、同職業の情報は非常に乏しかった。それは理学療法士及び作業療法士法が施行され、PTという資格が日本に誕生したのが1966年であり、養成がはじめて20年経っていないためである。

の、変わってしまうこと、変えなければならぬこと」「やりたいこと、やれること、やらなければならないこと、やってはならないこと」

を、意思決定する際に織り込むこと。

これらは私が物事を考察するときに大切にしていることである。大きなヒントを与えてくれる。

当時の担任の先生に自分の進路の相談をすると「そんな職業を選んで今後大丈夫なのか？」と心配して頂いた一方で、生徒の進路を後押ししていただいたことを記憶している。

その後、信州大学医療技術短期大学部(現、医学部保健学科)に進み、現在に至ることができたのも、自主性を尊重する県陵の校風が大きく後押ししてくれたと感じている。

私の高校当時、日本に7000人程度であったPTはもうすぐ15万人になろうとしている。当時から考えたら予想もできない

手づくり朝食と大浴場が人気のホテル

松本ツurisTホテル
Matsumoto Tourist Hotel

全日本シティホテル連盟会員・政府登録

縣 正長 (高17回)
縣 秀享 (高23回)

〒390-0815 長野県松本市深志2丁目4-24
TEL 0263-33-9000 FAX 0263-36-6435
<http://www.trist.co.jp/>

県陵税理士会

会長 百瀬征男(高16回)

関東信越税理士会 松本支部所属
会長以下 29名

発足以来30年、毎年8月定期総会、研修・親睦に団結力は強く、研鑽に励んでいます。

割烹 かっぽう

勇屋会館

丸山庄一(高15回)三八会
丸山英樹(高43回)

安曇野市豊科4480-12